



テストの状況を漏れなく把握

複数のコードベースにおける現在のテスト状況から過去のテストデータや傾向までを、Webベースのダッシュボード上で確認できます。そのため、管理者には以下のようなメリットがあります。

- ✓ リリースまで予定が立てやすくなる
- ✓ テスト全体の進捗を社内/社外の関係者と共有しやすくなる
- ✓ 必要な情報を必要な形にまとめたレポートを作成できる
- ✓ テストに関連する情報を詳細まで掘り下げて確認できる

Cantataのアドオン製品であるTeam Reportingを利用することで、コードやテストランについての追加データをお使いのCantataサーバー上に保管することができます。Cantataで管理されるテスト情報を効率的にまとめたり、フィルターをかけて必要な情報だけを確認したりすることができます。

テスト結果とカバレッジ解析結果のまとめ

Cantataで管理するテストはそのテスト対象のコードと共に、コードの機能やチーム構成、プロジェクトなどをもと作られるフォルダ階層で保管されます。データはそれぞれのフォルダやサブフォルダに集約され、テストされるコードの割合が現在の合否結果やカバレッジメトリクスと合わせて確認できるようになっています。また、過去のデータはビルドごとに管理され、傾向の分析や今後の計画立てに役立てることができます。

特長

- › Cantataサーバー上に全てのテストデータを保管
- › リアルタイムな管理者用ダッシュボードを表示
- › テスト結果やカバレッジ解析結果を集約
- › テストラン間の差分を分析
- › レポートの生成
- › 他のレポートツールとの連携
- › チーム間のコラボレーションを促進

The screenshot displays the CANTATA TEAM REPORTING interface. The main content area is titled "Head up display module" and includes a "Containers Summary" section with a "結果のフィルタリング" (Result Filtering) button. Below this, there are several progress bars and metrics: "Number of containers: 4", "Source files tested: 1311", "Test script passes: 37", and "Test case/coverage passes: 12115". A table shows coverage percentages for different components: Entry Point (100%), Statement (87%), Decision (75%), and Call-Return (88%).

At the bottom, there are two charts: a bar chart for "Test case/coverage" showing "Failed" (red) and "Passed" (green) counts over time, and a line chart for "Coverage" showing trends for "Entry Point", "Statement", "Decision", and "Call-Return" over time. The x-axis for both charts ranges from 08-October-2015 to 23-February-2016.

On the left side, there are two red callout boxes: "柔軟なフォルダ構成でデータを格納" (Flexible folder structure for data storage) and "過去データと傾向" (Past data and trends).

高機能なフィルター機能

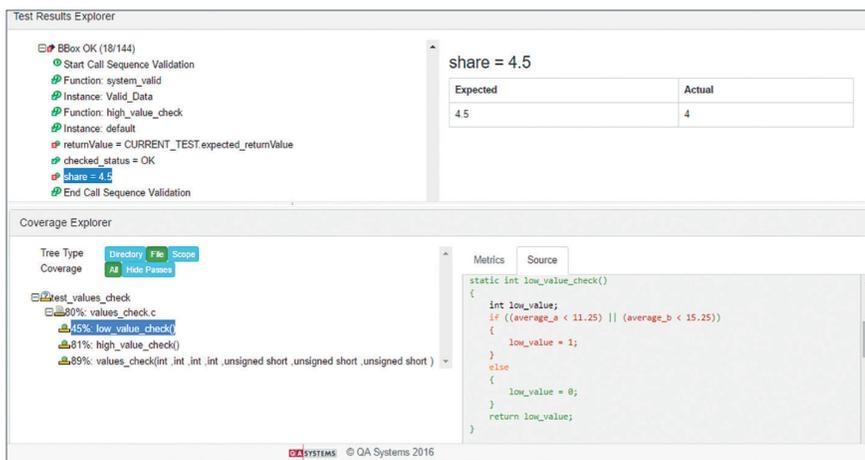
いくつかのビルド構成や実行環境でコードが再利用される場合、それぞれの環境においてコードを再テストできます。Cantataのテストランは個別に、環境変数、ビルドタグ、CantataをはじめJavaやユーザー定義のプロパティでラベル付けすることができます。

このラベルがあることで、管理者はすべてのテストランを俯瞰できるだけでなく、高度なフィルター機能を利用することができますようになります。また、同じフィルターを過去のテストランデータに、特定の期間を指定して適用することも可能です。

テストデータを掘り下げて、チーム間のコラボレーションを促進

エンジニアや管理者が協力して開発やCantataテストのレビューを行う必要があるとき、詳細なテストの情報がすべてTeam Reportingに集約されていることで、異なるワークスペースやターゲットプラットフォームごとに同じテストを複数する手間を省くことができます。

すべてのリビジョンのテストスクリプトやソースコード、テスト結果がCantataサーバー上に保管されます。これにより、チーム間での進捗確認やビルド横断的なテストプロセスの共有ができます。また、Webインターフェース上では、テストスクリプトとソースコードをCantata desktop Eclipse® GUI上と同じスタイルで見ることができます。



他のツールとの連携

Team Reportingのデータは、Webインターフェース上だけでなく、Cantataサーバー上で直接確認し、別のツールと共有することが可能です。継続的インテグレーションツールや要件管理ツールとの連携の場合、特定のテスト結果にサードパーティのツールからハイパーリンクを付けることができます。

ALMツールやその他の品質管理レポートツールとの連携には、クエリに対するXMLやJSONフォーマットレスポンスを可能にする、完全なREST APIとURIクエリパラメータ用のフィルタリング機能が用意されています。そのため、サードパーティのインターフェースからテストデータへアクセスすることが可能です。

レポート生成

あらかじめ用意されているレポートやユーザーが自由にカスタマイズできるレポートを活用することで、容易に必要な情報をまとめることができます。

- ✓ フィルター処理したテストラン
- ✓ テスト状況とカバレッジデータ
- ✓ レポートスタイルとレイアウト

Cantataサーバー上のすべてのデータとレポートは、ブラウザから確認することができます。また、PDFやHTML形式での出力も可能です。これにより、テストの状況を社内だけでなく、外部の顧客や協力会社とも簡単に共有することができますようになります。

追加情報



Cantata Team Reportingの仕組みや活用方法についての詳細は **Cantata Feature Brief - Team Reporting** をご参照ください。



概要説明ビデオ



CantataとCantata Team Reportingの無料トライアルの申し込みは ss_sales@toyo.co.jpまで

“はかる”技術で未来を創る



株式会社 東陽テクニカ ソフトウェア・ソリューション

〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6
TEL. 03-3279-0771 FAX. 03-3246-0645 E-Mail: ss_sales@toyo.co.jp
www.toyo.co.jp/ss/